

参考文献練習問題

1. 次の各文献を名前（苗字＋個人名）＋『書名』＋出版社名＋、＋刊行年の順で整理しなさい。

中央公論社、『ギリシアとローマ』（世界の歴史5）1997年、桜井万里子・本村凌二。

1997年、橋場弦、東京大学出版会、『丘の上の民主政』。

フラウィオス・アッリアノス、東海大学出版会、『アレクサンドロス東征記およびインド誌』本文編・注釈編、
（大牟田章訳注）、1996年。

『ミューナイ世界』、1983年、みすず書房、J.チャドウィック（安村典子訳）。

桜井万里子・橋場弦（編）『古代オリンピック』（岩波新書）岩波書店、2004年。

2. 次の文献を参考文献表に整理しなさい。

（小河陽訳）、1988年、『ヘレニズム世界』教文館、F. W. ウォールバンク。

ミネルヴァ書房、1993年、大戸千之、『ヘレニズムとオリエント ―歴史のなかの文化変容―』。

『古代ギリシアの女たち』（中公新書）、桜井万里子、1992年、中央公論社。

筑摩書房、森谷公俊、1998年、『王妃オリュンピアス ―アレクサンドロス大王の母―』（ちくま新書）。

岩波書店、1996年、桜井万里子、『古代ギリシア社会史研究 ―宗教・女性・他者―』。

3. 次の参考文献を参考文献表に整理しなさい。

『古代ギリシア 地中海への展開』（諸文明の起源7）、京都大学出版会、2006年、周藤芳幸。

『ギリシア・ローマの栄光』、講談社、馬場恵二、（ビジュアル版世界の歴史3）、1984年。

創文社、1986年、合阪学、『ギリシア・ポリスの国家理念』。

2003年、J. J. ポリット、『ギリシャ美術史 芸術と経験』ブリュッケ、（中村るい訳）。

『ポリスに生きる』、前沢伸行、山川出版社、（世界史リブレット2）、1998年。

2000年、『古代スパルタ史研究 ―古典古代への道』岩波ブックサービスセンター、新村祐一郎。

同成社、1997年、『ギリシアの考古学』、周藤芳幸。

フラウィオス・アッリアノス、（大牟田章訳注）、『アレクサンドロス大王東征記付インド誌』上・下、
（岩波文庫）、2001年、岩波書店。

『図説ギリシア エーゲ海文明の歴史を訪ねて』、1997年、周藤芳幸、河出書房新社。

思索社、W. W. ターン、『ヘレニズム文明』、（角田有智子・中井義明訳）、1987年。

『古代ギリシアにおける自由と正義』、1998年、創文社、仲手川良雄。

伊藤貞夫、岩波書店、『古典期のポリス社会』、1981年。

『アテナイ公職者弾劾制度の研究』、1993年、橋場弦、東京大学出版会。

桜井万里子（編）、山川出版社、2005年、『ギリシア史』（新版世界各国史17）。

清水書院、1984年、（清水新書）、大牟田章、『アレクサンドロス大王 ―「世界」をめざした巨大な情念―』。

2001年、白水社、『古代ギリシア人 ―自己と他社の肖像―』（橋場弦訳）、P. カートリッジ。

原随園、（新潮選書）、新潮社、『アレクサンドロス大王の父』、1974年。

『ミケーネ世界崩壊期の研究―古典古代論序説―』、岩波書店、太田秀通、1968年。

講談社、2004年、伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史 ポリスの興隆と衰退』（講談社学術文庫）。

中井義明、ミネルヴァ書房、2005年、（MINERVA 西洋史ライブラリー64）、『古代ギリシア史における帝国と都
市 ―ペルシア・アテナイ・スパルター―』。

村川堅太郎・秀村欣二、中央公論社、1961年、『ギリシアとローマ』（世界の歴史2）。

（講談社選書メチエ）、『アレクサンドロス大王 ―「世界征服者」の虚像と実像―』、森谷公俊、2000年、講談社。

1962年、（大城巧訳）、みすず書房、『専門字Bの解説』、J.チャドウィック。

1997年、山川出版社、『ソクラテスの隣人たち―アテナイにおける市民と非市民』、桜井万里子。

P. ブリアン、2002年、（文庫クセジュ）、『アレクサンドロス大王』、（田村孝訳）、白水社。

東京堂出版、2004年、『古代ギリシア遺跡事典』、周藤芳幸・澤田典子。